

三重県紀北町植樹ボランティアについて

近畿産業株式会社
傍島 真

12月6日早朝5時半に弊社本社工場に集合しました。私と新入社員2名参加し、時間通り来るか不安に思いながら当日の朝を迎えましたが、何とか二人とも時間通り来ました。今年は寒波の影響もあり、積雪が心配となり、西名阪国道でいく予定を急遽、新名神高速から行くことにしました。道を多少間違えながら、9時半頃現地に到着しました。

紀北町のボランティアの方が温かく迎えてくれ、10時からイオン財団の岡田会長、三重県副知事、そして紀北町長らが挨拶してくれましたが、イオン財団としては日本だけでなく、アジア諸国で行っていること、紀北町で植樹を行うのが今回3回目で最後であること、5000本の木を500人強で実施することを知りました。5000本の木の種類は19種類（広葉樹のみ）もありました。実際の植樹は25班に分かれ、紀北町の方の船頭により、木を切った山の斜面に植樹しました。当日は快晴でしたが、木の根があったり、ぬかるんでいたりと意外と植樹するのは大変でしたが、様々な種類の木を私は18本植えることができました。植樹は各班が区画を決め植樹し、500人の力が合わさるとあっという間に植樹されるさまは爽快でした。

弊社経営理念の一つに「資源を大切に、環境に優しく人々に信頼される企業を創造する」があります。日々の仕事の中ではどうしても環境にいいことをしているという実感が湧いてきませんが、このような環境をよくするイベントに参加し、3名それぞれに感じるものがあったと思います。特に私が今回の植樹で感じたことは、やっていることは小さくても少しでも環境を良くしていこうという想いとその実行が大切だと痛感しました。



紀北町植樹レポート

近畿産業株式会社
松本 英次

私がこの植樹会に参加して、考えさせられたこと、思ったことは二点あります。

一点目は、環境問題への問題提起、意識付けです。実際に植樹を体験することにより、森林資源使用量の削減、土砂災害の問題、二酸化炭素排出量の削減といった環境問題とより真剣に向き合う機会を得られました。特に、前二点に関しては、実状を見ることで、より深く考えることができました。

二点目は、この植樹会にかける人々の熱い思いです。イオン環境財団の岡田会長、石垣三重県副知事、尾上紀北町長をはじめとした主催の皆様が熱く語る姿が、とても印象に残っています。そして何より、地元の方々が多く参加されていたことが、紀北町をより良くしていきたいという思いの表れではないかと思えます。

五年後、あるいは十年後に自分が植えた樹が大きく育った時に、またこの紀北町を訪れたいと思っています。



植樹参加について

近畿産業株式会社
太田垣 佑弥

今回、イオン環境財団の植樹会に参加出来て、とても良い経験となりました。世界規模で行われている植樹活動がどのように環境に役立っているのか、この活動を通して学ぶことが出来たと思います。

今回の三重県の紀北町の植樹には、子供から大人まで約 500 人の方が参加していて、家族で参加できるのも魅力の一つだなと感じました。実際、木の苗を植える所は結構な斜面でなかなかしんどかったです。私は 15 本くらい植えることが出来ました。自分で植えた樹が、3、6、10 年後大きく育ち、意味のある活動をしたのだとまた認識できる日を楽しみにしています。大阪でも是非このような活動があれば参加したいと思えます。

環境に配慮した活動は、これからどんどん需要が高まっていくと思います。エコ活動や CO2 削減など小さなことから始めたいと思います。